

## 東北新幹線 上野～大宮駅間で発生した停電事故及び、感電事故等に関する緊急申し入れ

2024年1月23日、東北新幹線 上野～大宮駅間において停電事故が発生し、復旧にあたって作業員が感電受傷する重大事故が発生し、国土交通省から警告を受ける事態ともなっています。JR東日本管内で感電事故が繰り返し発生していることを重く受け止め、徹底した原因究明をもとに真の対策を打ち出し安全文化を再確立しなければなりません。

停電の原因は、架線が垂下しているところに列車が進入したためであり、架線垂下の直接的な原因は重錘ロッドが破損したこととなっていますが、そもそも何故重錘ロッドが破損したのか、経年管理や取替計画はどのようになっていたのかなど原因究明が必要です。

また、当該車両の3号車、7号車のパンタグラフが破損、自力走行が不可能となったため、停電の復旧作業と当該車両の救援が必要となり、東北・上越・北陸新幹線では東京～仙台駅間、東京～高崎駅間は終日運休、ご利用を予定されていた約12万人に影響を与える大きな輸送混乱を招きました。

さらに、復旧にあたって作業員が感電受傷するという二次災害が発生、感電した作業員の火の粉をはらった作業員も火傷を負い、2名の作業員が救急搬送される事態となり、「命」が失われてもおかしくない重大事故が発生しています。

昨年6月には内房線 上総湊～竹岡駅間において、協力会社作業員が高圧配電線引下線取替作業中に感電し、死亡するという痛ましい事故が発生しており、「いつ死亡事故が発生するかわからない」と強い危機感を覚えざるを得ません。

会社は、昨年11月に「グループ安全計画2028」を発表し、「『これまでは想定外であったリスク』を本質の理解により想像し、安全を先取る」としています。しかし、停電復旧作業という「感電が想定される現場」で、「感電事故」が発生したことは「グループ安全計画の根幹」を揺るがす大きな事故と言えます。会社は「安全は経営のトッププライオリティ」と位置付けていますが、「安全第一」の職場になっているのかを労使で真摯に向き合い議論すべきと考えます。

したがって、大規模輸送混乱及び、感電事故という三大労災を繰り返し発生させてしまったことを重く受け止め、本事故の徹底した原因究明をもとに真の対策を打ち立て、JR東日本グループの危機的な状況を乗り越え安全を守り抜くために、下記のとおり緊急に申し入れました。

1. 2024年1月23日に上野～大宮駅間で発生した架線垂下の原因と対策を明らかにすること。
2. 2024年1月23日に発生した上野～大宮駅間での停電復旧作業で感電事故が発生した原因と対策を明らかにすること。
3. 当日事故発生以降の、旅客救済や輸送混乱における旅客案内、乗務員操配等について、職場の声を把握し課題や教訓等を明らかにすること。

## 安全文化の再確立に向け、徹底した原因究明の下、真の対策を打ち出そう！！